

2. 白山ユネスコエコパークの概要

2.1 登録

(1)名称

白山生物圏保存地域(和名正式名称)

なお、英語名は Mount Hakusan Biosphere Reserve、和名通称は白山ユネスコエコパークであり、本計画では「白山ユネスコエコパーク」と記載します。

(2)登録の経緯

白山ユネスコエコパークは当初、政府主導によって登録準備が進められ、1980年に「核心地域」と「緩衝地域」のみで登録されました。その後、持続可能な発展の重要性が認識されるようになり、1995年の第2回世界生物圏保存地域会議(スペイン、セビリア)でまとめられた「セビリア戦略」において、「移行地域」を含めた3つのゾーニングを全て設定することが要件となりました。

白山ユネスコエコパークでは、「移行地域」を設定するために2013年2月から富山県南砺市、石川県白山市、福井県大野市・勝山市、岐阜県高山市・郡上市・白川村の4県7市村が連携して協議を図り、2016年3月に「移行地域」の追加を含む拡張登録がユネスコに認められました。

(3)登録の目的

白山ユネスコエコパークは、白山という1つの山を共通のシンボルとして、複数の地域が互いに手を取り合うことで生物多様性や自然資源の保全を図り、自然環境に適応した暮らしや文化に新たな価値を付加し、住民主体による持続可能な地域づくりを行うことを目的に登録されました。



©UNU-IAS OUIK

白山ユネスコエコパーク拡張登録記念シンポジウム(2016年5月)

United Nations Educational, Scientific
and Cultural Organization



Programme on Man and the Biosphere

By decision of the Bureau of the International
Co-ordinating Council of the Programme on Man
and the Biosphere, duly authorized
to that effect by the Council

Mount Hakusan

is recognized as part
of the international network of Biosphere Reserves.

This network of protected samples of
the world's major ecosystem types

is devoted to conservation
of nature and scientific research
in the service of man.

It provides a standard against which can be measured
the effects of man's impact
on his environment.

Date
Paris,
17 February 1981

A. I. I. I. I.
Director-General
of Unesco
Amadou-Mahtar M'Bow

白山ユネスコエコパーク登録証(1980)



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Man and
the Biosphere
Programme

MAN AND THE BIOSPHERE PROGRAMME

*By decision of the
International Co-ordinating Council
of the Programme on Man and the Biosphere,*

Mount Hakusan Biosphere Reserve Extension Japan

*has been designated for inclusion
in the World Network of Biosphere Reserves.*

*The world's major ecosystem types and landscapes
are represented in this Network, which is devoted to conserving
biological diversity, promoting research and monitoring,
as well as seeking to provide models of sustainable
development in the service of humankind.*

*Participation in the World Network facilitates cooperation
and exchanges at the regional and international levels.*

DATE OF INSCRIPTION

19 March 2016

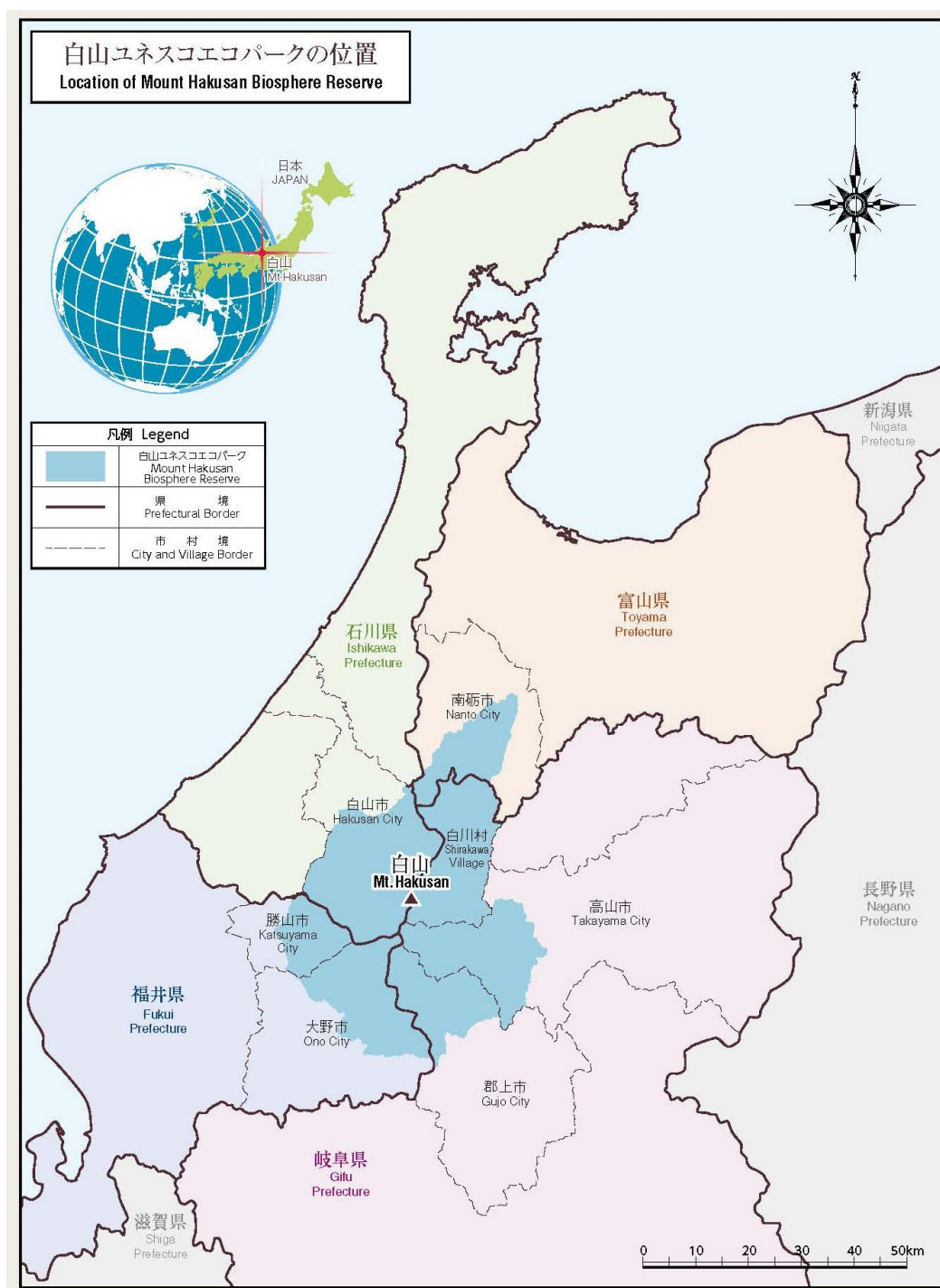
DIRECTOR-GENERAL OF UNESCO

白山ユネスコエコパーク拡張登録証(2016)

2.2 概況

(1)位置

白山ユネスコエコパークは、日本列島のほぼ中央に位置し、中部地方に属しています。(緯度:N35° 51' 15" ~N36° 29' 56"、経度:E136° 29' 27" ~E137° 04' 20")エリアは、富山県・石川県・福井県・岐阜県の4県にまたがっています。



©UNU-IAS OUIK

白山ユネスコエコパークの位置

(2)自然環境

【山 脈】

白山一帯の山地は、一般に両白山地と呼ばれています。「両白山」とは二つの「白山」、すなわち白山ユネスコエコパークの中心となる標高 2,702m の白山と、白山より南西約 50km に位置する標高 1,617m の能郷白山(白山ユネスコエコパークエリア外)を示しており、この 2 つの山を含む山地が両白山地です。

両白山地の最高峰である白山は、飛騨山脈(白山から北東方向約 80km に位置する山脈で、北アルプスとも呼ばれている)等から離れた孤立峰とされる一方で、日本列島の日本海側と太平洋側を隔てる脊梁山脈の一角を成しています。

【河 川】

白山の山塊を源に、庄川、手取川、九頭竜川、長良川の 4 水系が流れ出ています。(以下のエリア名については、(4)構成エリア(P. 21)を参照)

庄 川：高鷲エリア、荘川エリア、白川郷エリア、五箇山エリアを経由して北へ流下し、日本海に注ぐ。

手 取 川：白峰エリアからの本流に、尾口・中宮エリアからの支流を合わせて北へ流下し、日本海に注ぐ。

九頭竜川：白鳥エリアの石徹白集落周辺から和泉エリア、大野エリア、勝山エリアを北西に流下し、日本海に注ぐ。

長 良 川：高鷲エリア、白鳥エリア(石徹白集落周辺を除く)から南へ流下し、太平洋に注ぐ。

【地 形】

白山の地形の大部分は、白山火山の山体が河川等により浸食された山地です。白山の山体は豪雪や豊富な雪解け水によって浸食が進み、険しいV字谷が刻まれた壮年期の地形となっており、雪崩による浸食地形も発達しています。

白山の山麓には、庄川、手取川、九頭竜川、長良川の 4 水系による浸食地形又は地すべり地形が多く、大部分は急峻な山地となっています。その中に点在する緩傾斜地や小盆地、河川沿いの河岸段丘、谷底の堆積地等が居住地や農地となっています。

【地 質】

白山ユネスコエコパーク及びその周辺には、鮮新世～完新世の火山噴出物が高標高地を中心に分布しています。白山火山は活火山に分類されており、将来噴火する可能性がある火山でもあります。

鮮新世～完新世の火山噴出物の下位に分布する岩石は、古いものより飛騨変成岩類、手取層群、濃飛流紋岩類、花崗岩類、新第三紀中新世火山岩類等であり、このうち、手取層群は、中生代ジュラ紀後期から白亜紀前期(約 1 億 7 千万年前～1 億 1 千万年前)の堆積岩の地層で、主に海で堆積した九頭竜亜層群と陸で堆積した石徹白・赤岩亜層群に分けられます。

【気 候】

白山ユネスコエコパークの気候は、ケッペンの気候区分で温暖湿潤気候(Cfa)に分類され、平野部と比較すると標高が高いため冷涼な気候です。8月の平均気温は概ね20℃台前半、1月の平均気温は概ね0℃前後であり、年間総雨量は全てのエリアで2,000mmを超え、多いエリアでは3,000mmを超えます。

冬の間、ユーラシア大陸から日本列島に向かって吹く西寄りの季節風が山麓に大量の雪を降らせており、世界で最も低緯度に位置する豪雪地帯の一つとなっています。また、白山の山頂部は豪雪だけでなく、強風と低温により生物にとって厳しい生息環境となっています。

【植 生】

白山ユネスコエコパークの植生は、主に森林によって占められており、風速、積雪深、雪崩等の環境要因と地形条件に依存して、森林、草地、湿地等がモザイク状に分布しています。

白山ユネスコエコパークにおける自然植生の垂直分布は、標高により概ね以下のように分けることができます。(白山ユネスコエコパークの植生図(P. 9-10)を参照)

高山帯(高山帯自然植生域)

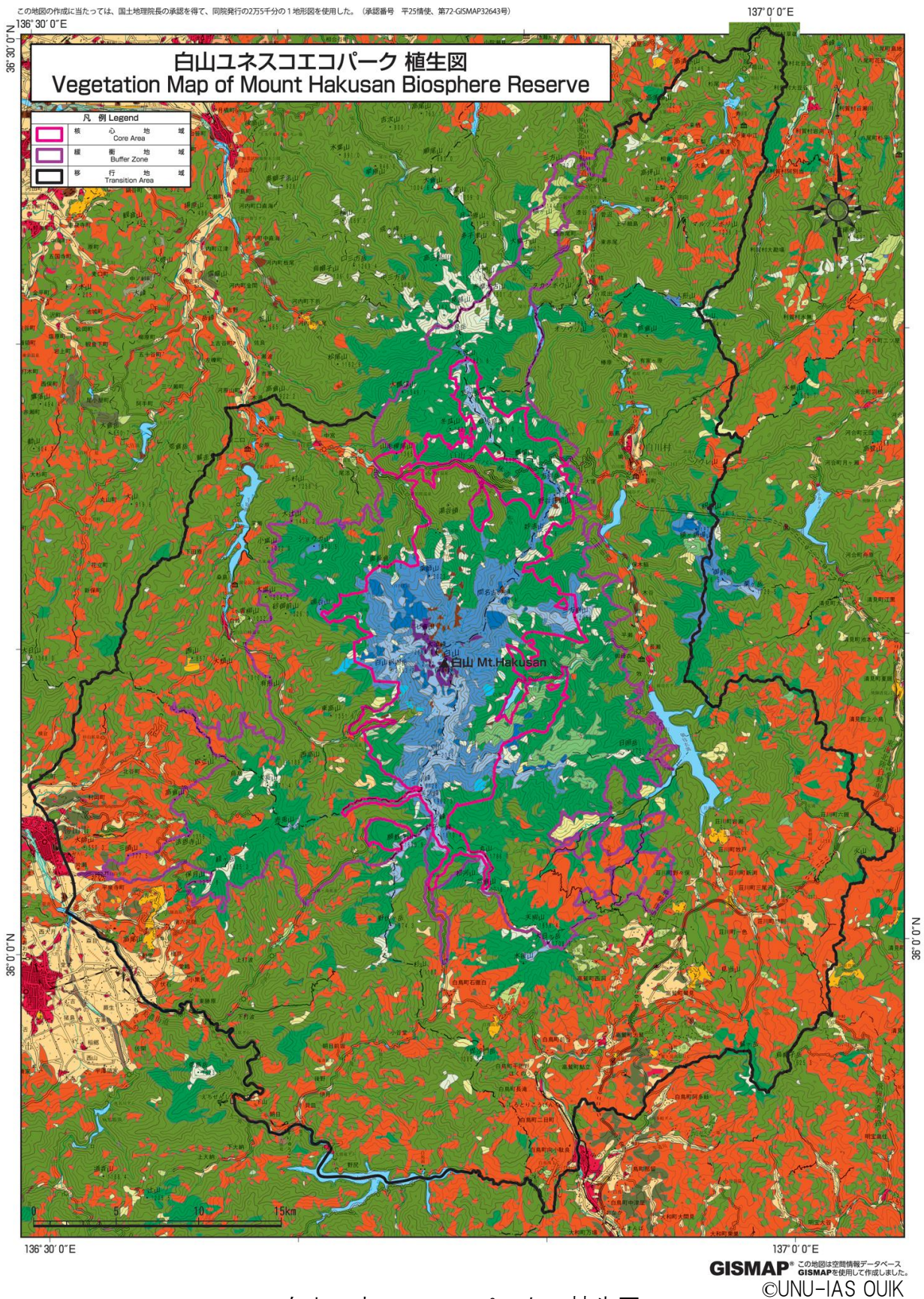
亜高山帯(コケモモ-トウヒクラス域＝常緑針葉樹林帯)

山地帯(ブナクラス域＝落葉広葉樹林帯)

高山帯は、日本列島の高山において断続的に分布がみられ、白山より西に高山帯をもつ山が存在しないため、白山を日本国内の分布の西限又は南限とする植物が多く、白山ユネスコエコパークの核心地域及び緩衝地域に生育する維管束植物のうち、117種が白山を分布の西限又は南限としています。多くの高山植物の分布限界となっていることから、白山の高山帯植生は植物地理学上、重要な位置づけにあります。

山地帯の落葉広葉樹林は、日本を代表する植生の1つであり、白山ユネスコエコパークでは、ブナが優占する自然林とミズナラが優占する二次林が大部分を占めており、雪崩地や溪畔林等、環境の差異によって多様な植物群落がみられます。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。（承認番号 平25情使、第72-GISMAP32643号）



白山ユネスコエコパークの植生図

白山ユネスコエコパーク 植生図 凡例

I 高山帯自然植生域

010000 : 高山低木群落

II コケモートウヒクラス域自然植生

050000 : 亜高山帯針葉樹林

060000 : 亜高山帯広葉樹林

070000 : 高茎草原及び風衝草原

III コケモートウヒクラス域代償植生

080000 : 亜高山帯二次林

IV ブナクラス域自然植生

110000 : 落葉広葉樹林 (日本海型)

140000 : 冷温帯針葉樹林

160000 : 溪畔林

180000 : 河辺林

200000 : なだれ地自然低木群落

V ブナクラス域代償植生

220000 : 落葉広葉樹二次林

240000 : 落葉広葉樹低木群落

260000 : 伐採跡地群落

VII ヤブツバキクラス域代償植生

420000 : 常緑針葉樹二次林

440000 : 低木群落

450000 : 二次草原

VIII 河辺・湿原・沼沢地・砂丘植生

470000 : 湿原・河川・池沼植生

IX 植林地・耕作地植生

540000 : 植林地

550000 : 竹林

560000 : 牧草地・ゴルフ場・芝地

570000 : 耕作地

X 市街地等

580100 : 市街地

580600 : 開放水域

580000 : その他

Vegetation Map of Mount Hakusan Biosphere Reserve Legend

I Natural Vegetation in Alpine Zone

010000 : Alpine shrub community

II Natural Vegetation in Vaccinio-Piceetea Region

050000 : Subalpine coniferous forest

060000 : Subalpine broad-leaved forest

070000 : Tall herb grassland and wind-exposed grassland

III Substitutional Communities in Vaccinio-Piceetea Region

080000 : Subalpine secondary forest

IV Natural Vegetation in Fagetea crenatae Region

110000 : Deciduous broad-leaved forest (Japan Sea type)

140000 : Cool temperate coniferous forest

160000 : Riparian forest

180000 : Riverside forest

200000 : Avalanche natural shrub community

V Substitutional Communities in Fagetea crenatae Region

220000 : Deciduous broad-leaved secondary forest

240000 : Deciduous broad-leaved shrub community

260000 : Plant community in clear-cut area

VII Substitutional Communities in Camellietea japonicae Region

420000 : Evergreen coniferous secondary forest

440000 : Shrub community

450000 : Secondary grassland

VIII Vegetation in Riverside, Moor, Marsh and Dune

470000 : Vegetation in moor, stream, pond and marsh

IX Plantation and Cultural Land

540000 : Plantation

550000 : Bamboo forest

560000 : Cultivated meadow, golf course, and lawn

570000 : Cultural land

X Urban District etc.

580100 : Urban district

580600 : Open water

580000 : Others

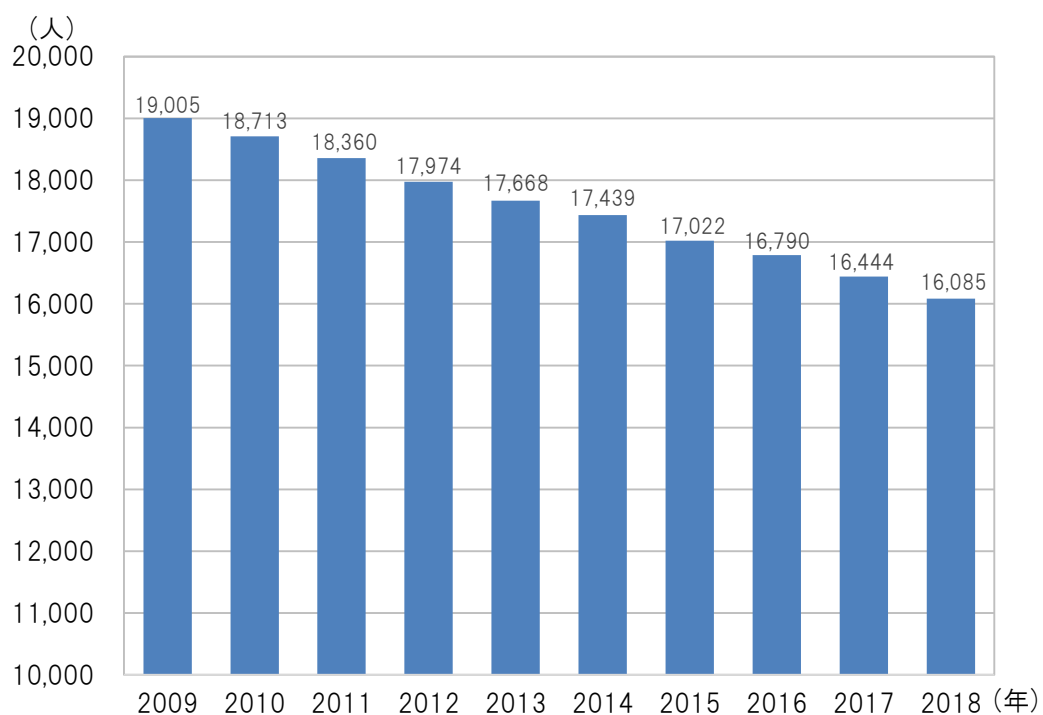
(3)社会環境

【人 口】

白山ユネスコエコパークエリア内の人口※は、16,085 人(2018 年 4 月 1 日現在)であり、その大半が移行地域に居住しています。人口は 2009 年からの 10 年間で約 15%減少しており、過疎化が進んでいるほか、高齢化も課題となっています。

白山ユネスコエコパークの地域住民は、白山を取り囲むように山麓に居住しており、集落は川沿いの平坦部を中心に立地しています。

※資料：各市村住民基本台帳



白山ユネスコエコパークエリア内の人口の推移

【農林水産業】

特産物の生産やブランド化、生産から加工、流通までの多角化等を行い、農業の振興を図っています。しかし、農業従事者の高齢化や採算性の悪化により、全般的に農業の停滞が目立ちます。

荘川エリア、高鷲エリア、大野エリアの高原では、高原野菜の露地栽培や牧畜が行われているほか、緩斜面ではソバの栽培や水稻栽培が行われ、これらの農作物を都市部に出荷しています。白峰エリアでは伝統的な絹織物が現在でも伝承されており、国内だけでなく国外でも販売されています。大野エリアと和泉エリアでは、薬草として使用されるオウレンが生産されています。狩猟はあまり行われなくなりましたが、山菜やキノコ類、堅果類、川魚等は今も利用されており、観光客にも販売されています。

【観 光】

山岳や雪、広大な森林等を活用したアウトドアスポーツや自然体験活動が白山ユネスコエコパークの全域で営まれています。

また、世界文化遺産にも登録されている五箇山エリアや白川郷エリアの合掌造り家屋や各エリアに伝わる伝統芸能は、地域の文化を伝えるとともに、観光資源ともなっています。

【白山信仰】

白山は、夏でも残雪の多い様子から「白い山」という名がついたと考えられており、古くから霊峰として信仰の対象とされています。この信仰を白山信仰と呼んでおり、全国には2,700社を超える白山神社があるとされています。

白山信仰の始まりは、717年に仏教の僧泰澄が白山に登頂した時とされており、以後、山岳信仰と仏教が習合した修験道の聖地として、全国から修行僧が訪れるようになりました。修行には、加賀禅定道(現在の石川県からの道)、越前禅定道(現在の福井県からの道)、美濃禅定道(現在の岐阜県からの道)の3本の禅定道が使われ、それぞれの山麓には宗教拠点である「馬場」が築かれました。

また、勝山エリアの国指定史跡である白山平泉寺旧境内(旧白山平泉寺城址)では、国内を代表する中世の宗教都市の顕著な遺構が発掘され、白山信仰の歴史を今に伝えています。

【有形文化遺産】

世界文化遺産として登録された五箇山エリア、白川郷エリアの「白川郷・五箇山の合掌造り集落」や、重要伝統的建造物群保存地区に選定された白峰エリアの白峰集落等、いくつかの集落に古い建造物や町並みが残されています。

これらの歴史的な町並みは、豪雪と農作業に適応した伝統的な生活様式と結びついており、観光資源としても活用されています。

【無形文化遺産】

かつて山麓の集落で営まれていた生業のうち、「白山麓の焼畑習俗」は国により記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されています。

伝統工芸としては、白峰集落の絹織物である牛首紬が石川県により無形文化財に指定されており、五箇山エリアの五箇山和紙や和泉エリアの穴馬紙等の製紙技術は、文化財に指定されていないものの、現在まで伝統的技術が伝承されています。

また、白山ユネスコエコパークの各エリアでは、暮らしの中で育まれた民謡や伝統的な祭事と、祭事で奉納される神楽や獅子舞、踊り等の伝統芸能が残されており、多くの観光客が鑑賞や体験に訪れています。

(4)特徴

白山ユネスコエコパークがもつ特徴は、8つの点にまとめられます。

1. 高山であること

標高 2,702m の白山は、高山帯を有する日本の山岳の中で最も西に位置しています。その山塊は、日本列島の日本海側と太平洋側を隔てる脊梁山脈の一角を成す一方で、孤立峰ともなっています。



2. 世界有数の豪雪地帯であること

白山は、冬季に日本海の水分を大量に含んだ北西の季節風を受け止め、山頂から山麓にかけて大量の雪を降らせます。日本だけでなく世界でも最も低緯度に位置する豪雪地の1つであり、その雪の殆どは春から夏にかけて溶け出していきます。



3. 高山植物の宝庫であること

白山は、日本の高山帯の西端に当たるため、白山を日本国内の分布の西限又は南限とする高山植物が多くみられます。また、山頂部では積雪の多寡や地形の形成に応じた多様な高山植物群落をみることができ、ハクサンイチゲ、ハクサンコザクラ、ハクサンチドリ、ハクサンフウロ等、標準和名に「ハクサン」を冠する高山植物も多くあります。



4. 多様な動植物を育む広大なブナ林があること

白山の山麓には広大なブナ林が広がり、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等の大型ほ乳類や、イヌワシ等の大型猛禽類が高い密度で生息しています。



5. 山村に適応した生活や文化を育んできたこと

白山の山麓では、豪雪によって生活や交通に大きな制約を受ける一方、製炭・狩猟・焼畑・養蚕等かつての生業(経済活動)をはじめ、世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」や白山市白峰重要伝統的建造物群保存地区等にみられるように、山の恵みを活かし、それに適応した持続可能な生活が営まれてきました。



6. 4つの水系の源であること

白山に降り積もった雪は春から夏にかけ溶け出し、庄川、手取川、九頭竜川、長良川の4水系に豊富な水を供給しています。白山は、農業用水や発電用水、飲料水等を通じて多くの流域住民の生活を支える、水の源となっています。



7. 人々の信仰を集めてきた山であること

白山は古くより多くの人々の信仰を集め、加賀・美濃・越前から開かれた登拝の道(禅定道)は多くの登拝者を迎え入れてきました。また、全国には2,700社以上とされる白山神社が建てられています。



8. 白山の恵みを活かし、大切に守ってきた人々がいること

地域住民は白山の恵みを活かして生計を立て、その恵みに感謝する暮らしを営んできました。白山への感謝と畏敬の念は結果として、白山の自然を守ることにつながってきたものと考えられます。



(5)研究及びモニタリング

白山ユネスコエコパークでは、自然環境や生活環境、社会状況等の様々な分野の研究及びモニタリングが実施されています。

【自然環境に関するモニタリング】

- ・ 自然環境保全基礎調査
(陸域、陸水域、海域の各々の領域についての日本全体の状況の調査(環境省))
- ・ モニタリングサイト 1000(重要生態系監視地域モニタリング推進事業)
(日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握するための調査(環境省))
- ・ 森林生態系多様性基礎調査
(持続可能な森林経営を進めるための、森林の状態とその変化の動向を把握・評価するための調査(林野庁))
- ・ 保護林モニタリング調査
(保護林の状況を的確に把握し、設定目的に照らして評価するため実施する継続的な調査(林野庁))
- ・ 緑の回廊モニタリング調査
(国有林野内に設定された複数の保護林を連結するネットワークを形成する緑の回廊において、野生生物の移動実態や森林施業との因果関係等を把握するために行う継続的な調査(林野庁))
- ・ 白山カモシカ保護地域の特別調査と通常調査
(白山カモシカ保護地域におけるニホンカモシカの生息状況や農業・林業の被害状況の調査(4 県))
- ・ レッドデータブック作成及び改訂のための調査
(レッドデータブックの作成のための動植物調査(4 県))

【社会統計】

- ・ 登山者数調査
(白山山頂に向かう各登山道の利用者数の調査(環境省))
- ・ 気象観測
(降水量、風向風速、気温、日照時間、積雪量の観測(気象庁))
- ・ 人口動態
(出生、死亡、転入及び転出の届出からの人口動態調査(7 市村))
- ・ 経済統計
(観光業、農業、林業、漁業等の統計調査(4 県 7 市村))

【石川県白山自然保護センターにおける調査】

- ・石川県白山自然保護センターは、白山地域の自然環境の保護と適正な利用を図るため 1973 年に開設されました。
- ・生態学、地球科学、人文科学の各分野で調査を実施しており、白山ユネスコエコパークの研究、モニタリングにとって最も重要な研究組織の 1 つであり、多様な研究活動に取り組んでいます。

【その他特定課題に関する調査】

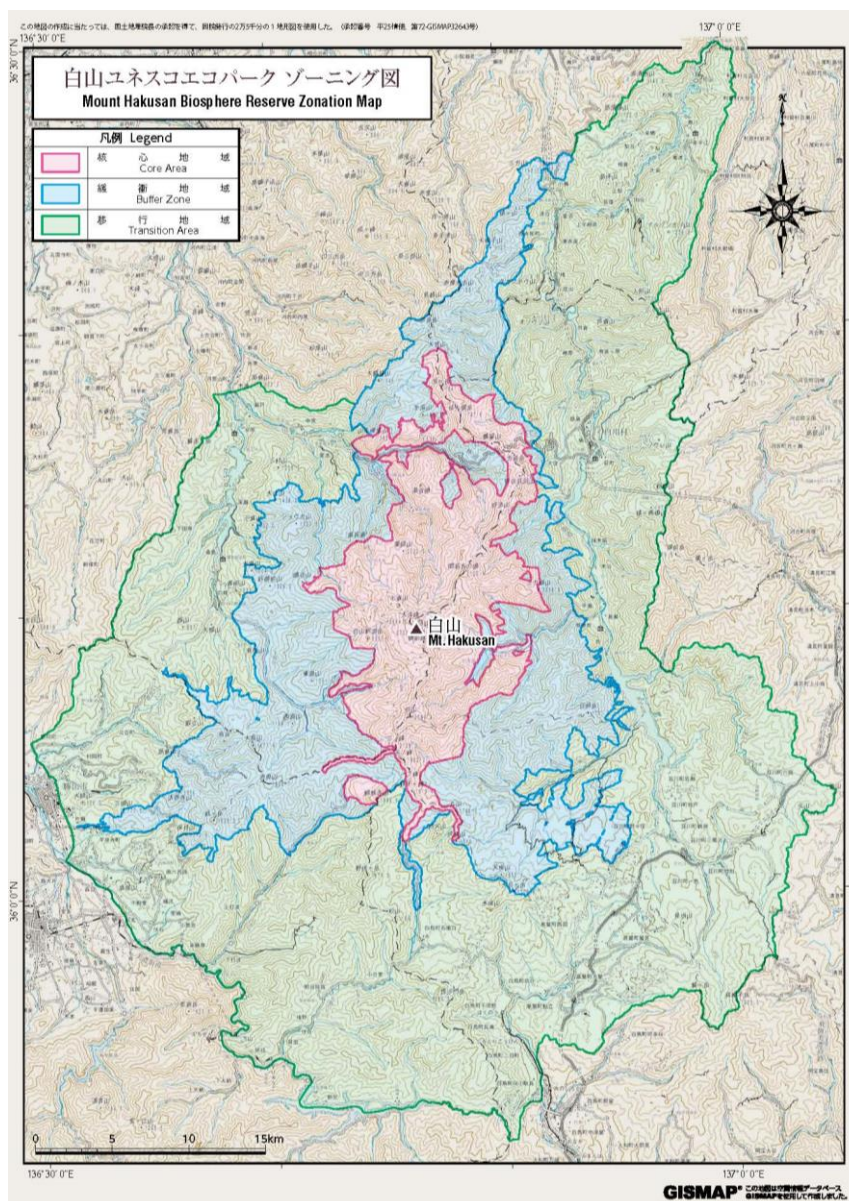
- ・猛禽類の生息状況調査
(林道開設工事区間において、希少猛禽類の飛翔等が確認されたことによるモニタリング(五箇山エリア))
- ・イノシシ及びニホンジカの生息状況調査
(イノシシ及びニホンジカの分布、食害等の被害状況の調査(環境省、林野庁及び 4 県))
- ・外来植物の生育状況調査
(白山生態系維持回復事業に係る外来植物調査(環境省))
- ・文化財調査
(白山ユネスコエコパーク内の遺跡発掘調査、文化財調査(4 県))

【住民主体のモニタリング活動】

- ・赤とんぼと共に生きるプロジェクト
(石川県立大学及び福井県自然保護センターと連携した、小学生による勝山市内の赤トンボ類の羽化調査と生息調査(勝山エリア))
- ・山中峠ミズバショウ群落のモニタリング
(岐阜大学、町内会、林野庁、高山市が連携したミズバショウ群落におけるイノシシやニホンジカ等の食害のモニタリングと保全活動(荘川エリア))

2.3 ゾーニングと構成エリア

白山ユネスコエコパークは、エリアのほぼ中心に位置する標高2,702mの白山及び山頂周辺の高山帯や亜高山帯を核心地域、それを取り囲む広大なブナ林を主とする森林地帯を緩衝地域、さらに周辺域の里山エリアを移行地域としてそれぞれ設定しており、総面積は199,329haとなっています。



ゾーニング図

ゾーニング別の面積

ゾーニング	面積 (ha)
核心地域	22, 120
緩衝地域	45, 660
移行地域	131, 549
総 面 積	199, 329

(1)核心地域

【区 域】

白山山頂部を中心とする高山帯から亜高山帯にかけてのエリアで、高山植物群落やブナ、ダケカンバ等の自然林が広く分布し、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等の大型ほ乳類、イヌワシ等の大型猛禽類といった保護を要する動植物が生息しています。

白山国立公園の特別保護地区・特別地域、白山森林生態系保護地域の保存地区から構成されています。

【保護担保措置及びその管理機関】

白山国立公園の特別保護地区・特別地域は、自然公園法に基づいて管理されており、環境省及び富山県、石川県、福井県、岐阜県が管理権限を有しています。

また、白山森林生態系保護地域の保存地区は、保護林制度に基づいて管理されており、林野庁が管理権限を有しています。

【管理・運営】

核心地域の管理・運営は、国立公園の区域は環境省が、保護林の区域は林野庁がそれぞれ白山ユネスコエコパーク協議会(以下、協議会という。)と連携をしながら管理・運営を進めています。

国立公園では、白山国立公園公園計画書や白山国立公園管理計画書に基づき、厳正に景観を保護し、優れた風致の維持を図っています。また、自然環境に配慮した登山道、避難小屋、ビジターセンター等の整備、ボランティアによる自然解説、エコツーリズムの推進等により、適正な利用の推進を図ります。

保護林では、各森林計画区の地域管理経営計画に基づき、国土の保全、生物多様性の保全、その他国有林野の有する公益的機能の維持を図っています。

(2)緩衝地域

【区 域】

核心地域に準じた優れた自然環境を有する山地帯にかけてのエリアで、ブナ等の自然林や二次林、湿地といった自然環境のほか、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等の大型ほ乳類、イヌワシ等の大型猛禽類が確認されています。

白山国立公園の特別地域、白山森林生態系保護地域の保全利用地区、釈迦ヶ岳林木遺伝資源保存林、名古屋ドロノキ 13 林木遺伝資源保存林、千丈平ブナ植物群落保護林の一部、嵐谷天然スギ植物群落保護林、経ヶ岳大型鳥類生息地保護林、これらの保護林を接続する白山山系緑の回廊の一部で構成されています。なお、上記が核心地域に設定する保護林と重複した場合には、核心地域が優先して設定されています。

【保護担保措置及びその管理機関】

白山国立公園の特別地域は、自然公園法に基づいて管理されており、環境省及び富山県、石川県、福井県、岐阜県が管理権限を有しています。

また、森林生態系保護地域の保全利用地区とその他の保護林、緑の回廊は、保護林制度等に基づいて管理されており、林野庁が管理権限を有しています。

【管理・運営】

緩衝地域の管理・運営は、国立公園の区域は環境省が、保護林・緑の回廊の区域は林野庁が、それぞれ協議会と連携をしながら管理・運営を進めています。

国立公園では、白山国立公園公園計画書や白山国立公園管理計画書に基づき、核心地域の緩衝帯として、良好な風致の維持を図っています。また、自然環境に配慮した登山道、避難小屋、ビジターセンター等の整備、ボランティアによる自然解説、エコツーリズムの推進等により、適正な利用の推進を図ります。

保護林、緑の回廊では、各森林計画区の地域管理経営計画に基づき、国土の保全、生物多様性の保全、その他国有林野の有する公益的機能の維持を図っています。

(3)移行地域

【区 域】

山地の自然資源を活かし、持続可能な資源利用を伴う暮らしを営んできた山村を中心としたエリアで、人の往来が稜線によって制約されていることを考慮し、移行地域の境界は水系を基本に設定されています。

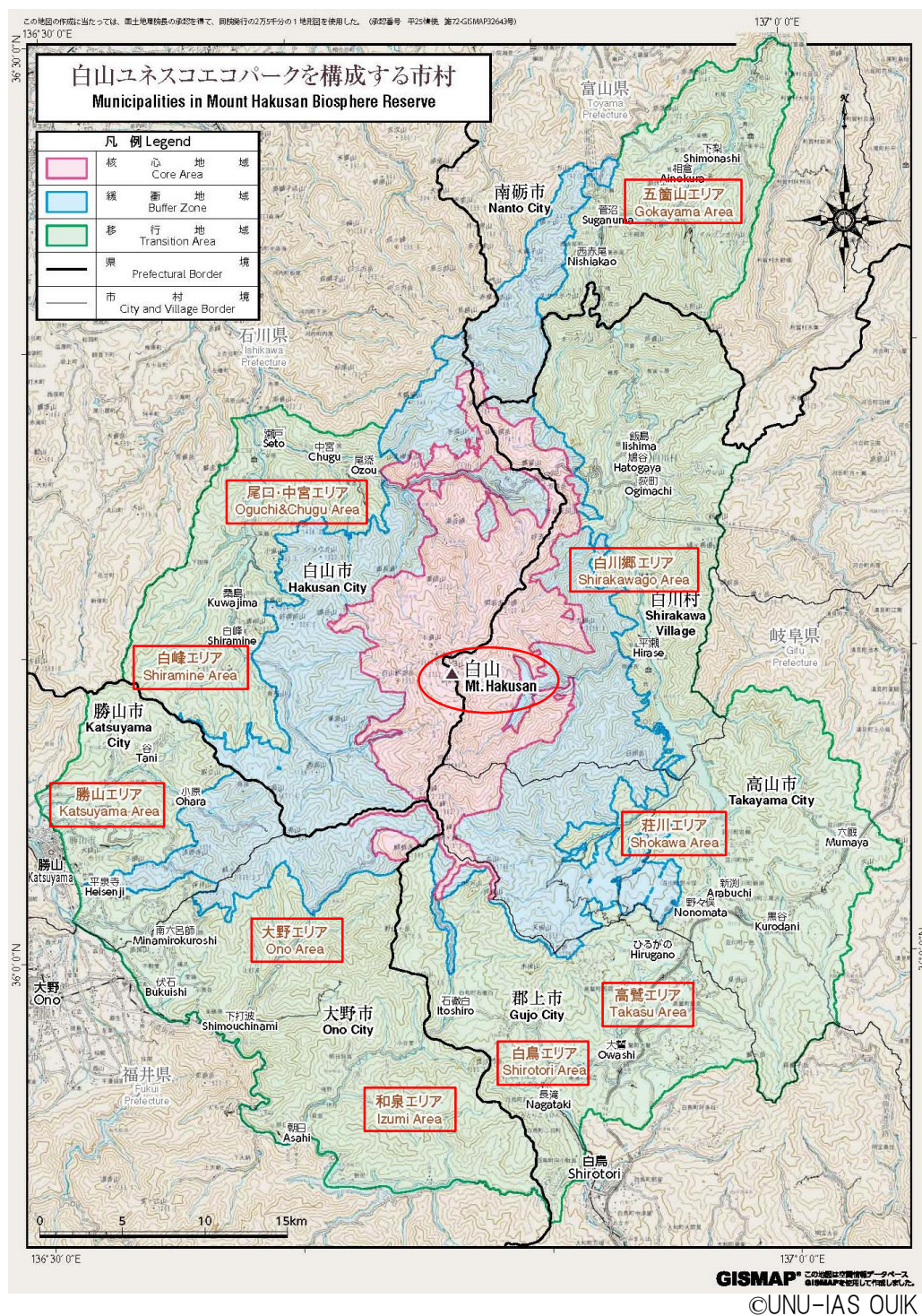
白山を源とする4つの水系、庄川水系、長良川水系の上流部、九頭竜川水系の右岸部(左岸部は別の山系となるため除いた)、手取川水系の上流部が含まれており、個々の境界線には稜線や川、過去(市町村合併前)の市町村界、主要道路等が利用されています。

【管理・運営】

区域内の地方自治体である4県7市村が中心となり、それぞれ協議会と連携をしながら管理・運営を進めています。

(4)構成エリア

白山ユネスコエコパークは、五箇山エリア(富山県南砺市)、白峰エリア、尾口・中宮エリア(石川県白山市)、和泉エリア、大野エリア(福井県大野市)、勝山エリア(福井県勝山市)、荘川エリア(岐阜県高山市)、高鷲エリア、白鳥エリア(岐阜県郡上市)、白川郷エリア(岐阜県白川村)の10エリア(以下、本計画では「環白山地域」という。)で構成されています。



構成エリア図

【白山ユネスコエコパークを構成する 10 エリア】

【五箇山エリア】

白山の北東側に位置し、南砺市の五箇山地域が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

古くから白山を信仰対象とする修行の場として開かれ、中世には浄土真宗が広く浸透しました。伝統的な合掌造りの家とその歴史を秘めた山里の文化が、今も受け継がれており、1995 年には「相倉」と「菅沼」の合掌造り集落が白川郷とともにユネスコの世界文化遺産に登録されています。



菅沼合掌造り集落

【白川郷エリア】

白山の東側に位置し、白川村全体が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

面積の 95%を森林が占め、庄川沿いの平地に集落があり、冬には積雪が 2mに達する豪雪地帯で、四季折々の美しい景色を堪能できます。

白山の北側を縦断する「白山白川郷ホワイトロード」では、白山の雄大な大自然を堪能することができます。



白川郷合掌造り集落

【荘川エリア】

白山の南東側に位置し、高山市荘川町の全域が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

清流庄川の源流をなす標高 800m から 1,200m の高原で、高冷地野菜やソバの栽培が行われ、荘川民謡や村芝居、ひねり踊り等の伝統文化が継承され、豊かな自然の恵みを活かした清流での川釣り、自然体験ができます。



荘川桜

【高鷲エリア】

白山の南側に位置し、郡上市の高鷲地域が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

高原特有の冷涼な気候となっており、ひるがの高原には高層湿原植物群落が広がっています。この高原特有の冷涼な気候を活用して、夏は避暑地、冬はスキーやスノーボード等のメッカとなっています。また、気候特性を活かした高冷地野菜の栽培、酪農による乳製品が生産されています。この地域の農業の発展は、先人たちが厳しい自然環境に耐えながら農地を開拓してきた努力の成果です。



大日ヶ岳とひるがの高原

【白鳥エリア】

白山の南方に位置し、郡上市白鳥町の北部(旧北濃村・旧石徹白村)が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

山々や長良川、石徹白川等の清流に恵まれた自然豊かな里で、中でも中世以降山岳信仰で栄えた長滝・石徹白地区は、白山信仰と文化に関わる多くの文化財や伝統芸能が伝えられているほか、白山登山道の1つである美濃禅定道の登り口には、国指定特別天然記念物の「石徹白のスギ」が自生しています。

社寺には多くの絵画や仏像等の文化財が残されているとともに、「長滝の延年」、「白鳥の拝殿踊り」、「石徹白の盆踊り」等の伝統芸能が伝承され、白山麓に伝わる歴史文化に触れることができます。

また、気候特性を活かしたトウモロコシ栽培やウィンタースポーツが盛んに行われています。



白鳥の拝殿踊り

【和泉エリア】

白山の南方に位置し、大野市内を流れる九頭竜川の北部が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

東は岐阜県に隣接、四囲山岳を形成し、中央を九頭竜川が東西に流れています。福井県と岐阜県を繋ぐ豊かな自然が魅力のエリアで、夏はキャンプや川遊び、カヌー、冬はスキー等のアウトドア体験ができます。



九頭竜湖

【大野エリア】

白山の南西部に位置し、大野市の阪谷地区、五箇地区の集落等が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

日本百名山の一つである荒島岳や、白山の支脈の山々に囲まれており、六呂師高原一帯では酪農が盛んで、経ヶ岳の山体崩壊時の集塊岩が点在し独特の風景が広がっています。紅葉の絶景地として名高い刈込池もこのエリアにあり、四季折々の自然を満喫できます。



刈込池

【勝山エリア】

白山の南西に位置し、勝山市の東部が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

白山を取り巻く低山の自然と白山信仰の歴史、自然と調和した豪雪地帯の文化や産業を見ることができます。

泰澄大師が白山を開山する際の登拝口として開かれた平泉寺、豪雪を利用したウィンタースポーツ、太古の生態系が刻まれた地層と恐竜をはじめとする化石群は、訪れる多くの人を魅了しています。



平泉寺白山神社

【白峰エリア】

白山の北西側に位置し、白山市の白峰地域が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

平年の積雪が 2m を超える周囲を山々に囲まれた豪雪地帯であり、そのため、雪とともに生きる独特の生活様式を生み出してきました。山間地の狭い河岸段丘面上に密集して形成された集落は、2012 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

また、「雪だるままつり」という、雪を使ったイベントを実施しており、集落一帯に約 2,000 個の雪だるまや雪像が造られ、雪を楽しむ行事として定着しています。



白峰雪だるままつり

【尾口・中宮エリア】

白山の北西側に位置し、白山市の尾口・吉野谷・鳥越地域の一部が白山ユネスコエコパークのエリアに登録されています。

中宮は、険しい山岳修験を行う修験者の拠点となりました。修験者たちは、中宮を拠点に白山山頂に向かう加賀禅定道に浄土の風景を求め、修行を行っていました。

また、約 300 年前から伝わるとされる人形浄瑠璃「尾口のでくまわし」は、1977 年に国の重要無形民俗文化財に指定され、毎年保存会による定期公演が行われています。



尾口のでくまわし